

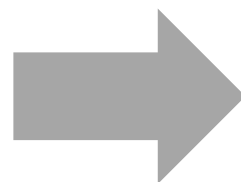
地震対策 – 発電所直下の海洋プレート内で発生する地震による影響 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.1

1993年釧路沖地震（マグニチュード7.5）と同規模の地震が発電所真下の海洋プレート（太平洋プレート）内で発生しても大丈夫か。



第16回ワーキング
(2020.2.7)、
第20回ワーキング
(2022.2.21) で議論

ワーキングチーム検証結果

地震による揺れを1.5倍にするなど、より厳しい条件を設定しても、耐震設計の基準となる地震の揺れ（基準地震動）の影響を下回ると評価されていることを確認

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

○海洋プレート内地震の発生状況

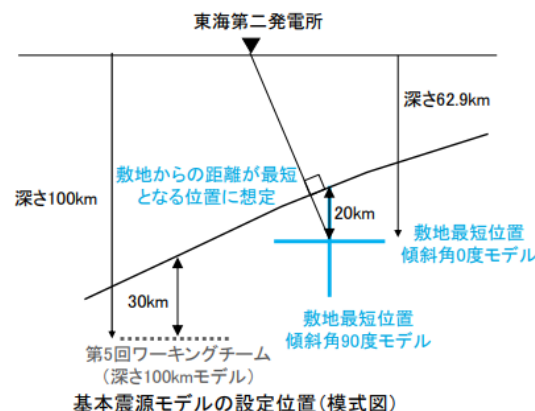
- ・基準地震動策定においては、海洋プレート内地震としてマグニチュード7.3の地震を考慮
- ・観測記録によれば、敷地周辺ではマグニチュード7.3を超える規模の海洋プレート内地震は発生していない。
- ・海洋プレート内地震の探索範囲を北海道まで広げると、1993年釧路沖地震（マグニチュード7.5）が発生している。



1993年釧路沖地震と同じ規模であるマグニチュード7.5の地震が敷地下方で発生することを想定し、評価を実施

○評価条件

- ・震源を発電所真下より近い位置に設定（海洋プレートが斜めに沈み込んでいることから、真下よりやや海側（下図右側）が敷地により近い）



- ・上記に加え、応答スペクトル（地震の揺れ）や応力降下量（地震前後の応力の差）を1.5倍にした評価を実施

○海洋プレート内地震による揺れと基準地震動による揺れの比較(一例)

- ・海洋プレート内地震による揺れ（赤線及び青線）は基準地震動による揺れ（黒線）より小さい

